

東京駅エキナカ（改札内）
「Tokyo Xmastation -動輪クリスマスツリーと101人の妖精-」
企画プロデュース集団「トコナツ歩兵团」がプロデュース！



企画プロデュース集団「トコナツ歩兵团」（団長・渡部祐介、株式会社マイロックチョコレート 代表取締役）は、JR東日本東京駅構内地下1階 エキナカ商業施設「GRANSTA（グランスタ）」内にてスタートする「Tokyo Xmastation-動輪クリスマスツリーと101人の妖精-」をプロデュースしました。

これは東京駅101周年を記念して制作されるもの。東京駅オリジナルの素材にこだわり、開業時に乗り入れていた9600形蒸気機関車や東京駅丸の内駅舎、そして東京駅に住み着いた架空の妖精をテーマに、銀の鈴エリアやエキナカ内の装飾の企画・デザイン・制作を行います。

銀の鈴広場に設けられた「動輪クリスマスツリー」（パネルも含めた全高2700mm）は、東京駅開業当時に乗り入れていた9600形蒸気機関車の動輪を細部に至るまで復元し、2段に積み重ねて制作。ちなみに9600形蒸気機関車は大正時代の標準形貨物用機関車（D型）で「キューロク」の愛称で親しまれ、昭和51年まで活躍していました。

また動輪クリスマスツリーの周囲には、東京駅に住み着いた架空の妖精たちを配置。誰もいなくなった深夜の東京駅で遊ぶ101人のサンタクロース姿の妖精たちが、造作やグラフィックで表現されています。妖精は1年に1人誕生する設定で、帽子には生まれた年の年号が記されており、自分と同じ年に生まれた妖精を探すのも楽しみのひとつとなっています。



<リリースに関する問い合わせ>

トコナツ歩兵团 団長・渡部 祐介

MAIL yusuke-watanabe@tokonatsu.net

【トコナツ歩兵団が果たした役割】

■東京駅に住み着いた妖精たちというオリジナル設定

東京駅開業時から住み着いている妖精たちが、深夜の東京駅でサンタクロースの格好などをして遊び回るという物語を設定。1年に1人ずつ生まれる彼らの帽子には、生まれた年が記されており、同じ年に生まれた妖精を探すのも楽しみの1つになっています。



■動輪クリスマスツリー

青梅鉄道公園 / 鉄道博物館（公益財団法人 東日本鉄道文化財団）の協力の元、東京駅開業時に乗り入れており、なおかつ現存する蒸気機関車をリストアップ。青梅鉄道公園に保存されている9608形（1913（大正2）年製造）の動輪3つ（第1、第2、第4動輪）を、刻印や傷跡、汚れに至るまで細部に渡って復元しました。それらを架空の妖精たちが2段に積み重ねてクリスマスツリーとしたという設定としています。

※動輪φ1220mm（設計図面はφ1245mm。現存サイズを優先）

2段積み上げサイズ W2440mm×H2300mm



※写真はいずれも制作中のもの。

■グラフィック

東京駅の象徴的な場所を撮影。それらの写真上にイラストで妖精たちを配置することで、普段見慣れた東京駅が非日常になるようなグラフィックを制作し、各所に配置しています。



※展開場所によって大きさに違いがあり、各サイズにはバラツキがあります。

開催概要

期間：2015年11月30日（月）～12月25日（金）

場所：JR東日本東京駅構内地下1階 エキナカ商業施設「GRANSTA（グランスタ）」内

主催：株式会社鉄道会館

プロデュース：トコナツ歩兵団

制作：株式会社スコープ

協力：青梅鉄道公園 / 鉄道博物館（公益財団法人 東日本鉄道文化財団）



【所在地】東京都千代田区丸の内1-9-1 JR東日本東京駅構内地下1階

【開発運営】株式会社鉄道会館

（本社：東京都千代田区／代表取締役社長：井上進）

【ショップ数】63（うち販売企画スペース1区画）

【ショップ業種】デリ、スイーツ、グロサリー、ベーカリー、カフェなど

【開業日】2007年10月25日

【営業時間】8：00～22：00（日・連休最終日・祝日は21：00まで）

一部ショップは7：00～ 無休



【トコナツ歩兵団】

団長・渡部祐介を中心に、建築家、グラフィックデザイナー、イラストレーターなど多彩なクリエイターが集う企画プロデュース集団。オモシロ企画でエンターテインメントや商業施設、まちづくり等を手掛ける。主な実績に福島県いわき市「ハダカのおもてなし」、岐阜県「観光イケメン公務員Gメン」、東京駅「NIIGATA CHU LIP STREET」、テラスゲート土岐「まちゆい」、若手陶芸家集団「ミノヤキセンパイ」、「島田市緑茶化計画」など。

<http://www.tokonatsu.net/>